学校番号	305

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　数学Ｂ（数研出版）						
副教材等	クリアー　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版）、チャート式数学Ⅱ＋Ｂ基礎と演習（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して自ら考え、発表できる力をつけることをめざします。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・問題集用のノートを用意してください。考査ごとに確認を行います。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。理解できている内容、理解できていない内容を把握するために、特に答え合わせに時間を割いてください。基本的な問題に対する確認を行い、応用的な問題に挑戦する意識をつけてほしいと思っています。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。問題を解く習慣を定着させるためにも、必ず最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

数列、統計的な推測の考えについて理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列、統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	数列における離散的な変化の規則性や統計における分布の特徴に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数列	数列	a：数列の定義，表記について理解している。 a：数列に関する用語，記号を適切に用いることができる。 b：数の並び方からその規則性を推定して，数列の一般項を考察できる。 c：数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。	定期考査 小ﾃｽﾄ 提出 ﾉｰﾄ	定期考査	観察
		等差数列	a：等差数列の公差，一般項などを理解している。 a：初項と公差を文字で表して，条件から数列の一般項を決定できる。 b：等差数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。 c：等差中項の性質に興味をもち，問題解決に取り組もうとする。	定期考査 小ﾃｽﾄ 提出 ﾉｰﾄ	定期考査	観察
		等差数列の和	a：等差数列の和の公式を適切に利用して，数列の和が求められる。 b：等差数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 b：項の正負と数列の和の増減の関係から，等差数列の和の最大，最小について考察することができる。 c：等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	定期考査 小ﾃｽﾄ 提出 ﾉｰﾄ	定期考査 レポート 課題	観察
		等比数列	a：等比数列の公比，一般項などを理解している。 b：等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。 c：等比中項の性質に興味をもち，問題解決に利用しようとする。	定期考査 小ﾃｽﾄ 提出 ﾉｰﾄ	定期考査	観察
1学期	数列	等比数列の和	a：等比数列の和の公式を，適切に利用して数列の和が求められる。 a：等比数列の和の公式を利用して，和の値から数列の一般項を求めることができる。 b：等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 c：等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 c：複利計算に興味・関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。	定期考査 提出 ﾉｰﾄ	定期考査 小ﾃｽﾄ 提出 ﾉｰﾄ	ﾜｰｸｼｰﾄ 発表 振り返りｼｰ

	いろいろな数列	数列の和と記号Σ	a：記号Σの意味と性質を理解し，数列の和が求められる。 a：第 k 項を k の式で表して，初項から第 n 項までの和が求められる。 b：数列の和を記号Σで表して，和の計算を簡単に行うことができる。 c：自然数の和の公式を用いて自然数の 2 乗の和の公式が導けることに興味をもち，自然数の 3 乗の和の公式を導こうとする。また，さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。	定期考査 小テスト 提出ノート	定期考査	観察
		いろいろな数列	a：階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。 ・数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し，数列の一般項が求められる。 ・階差数列利用，和 S_n 利用では，初項の扱いに注意して一般項が求められる。 b：数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 c：数列の規則性を，隣り合う 2 項の差を用いて発見しようとする。	定期考査 提出ノート	定期考査	観察
2学期	漸化式と数学的帰納法	漸化式	a：漸化式の意味を理解し，具体的に項を求めることができる。 ・漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。 ・初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 b：初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 c：おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。	定期考査 小テスト 提出ノート	定期考査	観察
		数学的帰納法	a：数学的帰納法を用いて等式，不等式，自然数に関する命題を証明できる。 ・$n \geqq k$ の場合に成り立つ不等式を，数学的帰納法を用いて証明できる。 b：数学的帰納法で証明した命題について，別の方法で証明してそれらを比較するなど，多面的に考察することができる。 c：数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	定期考査 提出ノート	定期考査 小テスト 提出ノート	ワークシート 発表 振り返りシート

	標本調査	母集団と標本	a：復元抽出と非復元抽出について理解している。 ・母集団分布と大きさ 1 の無作為標本の確率分布が一致することを理解し，母平均，母標準偏差を求めることができる。 b：母集団分布と大きさ 1 の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。 c：母集団や標本の特徴を理解しようとする。	定期考査 小テスト 提出ノート	定期考査	観察
	確率分布	確率分布	a：確率変数や確率分布について，用語の意味を理解している。 ・確率変数の確率分布を求めることができる。 b：試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 c：確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき，確率分布について積極的に考察しようとする。	定期考査 提出ノート	定期考査	観察
	確率分布	確率変数の平均と分散の性質	a：確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。 b：確率変数の期待値，分散，標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 c：確率変数の期待値，分散に関する種々の公式を，その定義や既知の公式を用いて導こうとする。	定期考査 小テスト 提出ノート	定期考査	観察
	確率分布	確率変数の和と積	a：同時分布の意味を理解し，2 つの確率変数の同時分布を求めることができる。 ・確率変数の和の期待値を，公式を利用して求めることができる。 ・複雑な確率分布の期待値を，確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。 ・独立な確率変数の積の期待値を，公式を利用して求めることができる。 ・独立な確率変数の和の分散を，公式を利用して求めることができる。 b：確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 c：2 つの確率変数の和や積の期待値，分散に関する種々の公式を，確率変数が独立であるかどうかに注意しながら導こうとする。	定期考査 提出ノート	定期考査	観察

		二項分布	a: 反復試行の結果を，二項分布を用いて表すことができる。 ・二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 b: 具体的な事象を二項分布として捉え，考察することができる。 c: 二項分布に興味・関心をもち，さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。	定期考査 提出 ノート	定期考査 小テスト	観察
3学期		正規分布	a:正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。 ・標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率を求めることができる。 b: 正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 c: 現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち，様々なデータについて考察しようとする。	定期考査 提出 ノート	定期考査 グループワーク 提出 ノート	ワークシート 発表 振り返りシー
		母平均の推定	a: 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ・信頼区間の考え方を用いて，母平均や母比率の推定ができる。 b: 推定や信頼区間の考え方がわかる。 c: 母平均や母比率の推定に関心を示し，信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。	定期考査 小テスト 提出 ノート	定期考査	観察
		仮説検定	a: 仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。 ・仮説検定の考え方を用いて，日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 b: 仮説検定の考え方がわかる。 c: 仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち，現実の問題の解決に役立てようとする。	定期考査 提出 ノート	定期考査 グループワーク 提出 ノート	ワークシート 発表 振り返りシー

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度